



アルゼンチンの最新情勢と 自動車産業

日本貿易振興機構(JETRO)
ブエノスアイレス事務所長
紀井寿雄

2018年3月14日

本日のテーマ

- アルゼンチンはどの段階にいるか？
- 日本勢はどの段階にいるか？
- アルゼンチンの自動車産業事情
- 「日亜」という戦略的パートナー

アルゼンチンはどの段階にいるか？

・マクロ経済数値としては改善傾向

＜アルゼンチンの主要経済指標＞

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	17年注釈
経済成長率 (%)	2.4	△ 2.5	2.6	△ 2.2	2.8	12月
インフレ率 (%)	10.9	23.9	11.9	-	24.8	12月
失業率 (%)	6.4	6.9	5.9	7.6	8.3	第3四半期
輸出額 (FOB、100万ドル)	75,963	68,407	56,788	57,879	58,428	1～12月
対日輸出額 (同上)	1,392	748	573	663	637	同上
輸入額 (CIF、100万ドル)	74,442	65,229	59,757	55,911	66,899	同上
対日輸入額 (同上)	1,521	1,374	1,223	953	1,057	同上
対内直接投資額(100万ドル)	9,822	5,065	11,759	3,260	8,281	1～9月
経常収支 (100万ドル)	△ 13,124	△ 8,674	△ 17,170	△ 14,533	△ 22,476	同上
外貨準備高 (100万ドル)	30,599	31,443	25,563	39,308	55,055	29/12/2017
為替レート (1ドル相当ペソ)	6.5	8.6	13.0	15.9	18.8	同上

(注1) 経済成長率の最新データ(2017年)は、月の経済活動指数(EMAE)を適用。前年同期比。

(注2) インフレ率は、前年12月比。2015年は、10月までのデータ。2016年は、統計局改正のため1～4月分のデータ集計が無く通年インフレ率は未発表。

(注3) 失業率データは、各年第4四半期のもの。2015年のみ第4四半期データが未発表で、第3四半期のもの。

(出所) 外貨準備高、為替レートは中央銀行。その他は国家統計・センサス局(INDEC)。

アルゼンチンはどの段階にいるか？

- ・ アルゼンチンをどのように見るか？
 - 「マクリ前」と「マクリ後」(2015年という節目)

マクリ前

輸入規制、為替規制、
融資の制約(パリクラブ問題等)

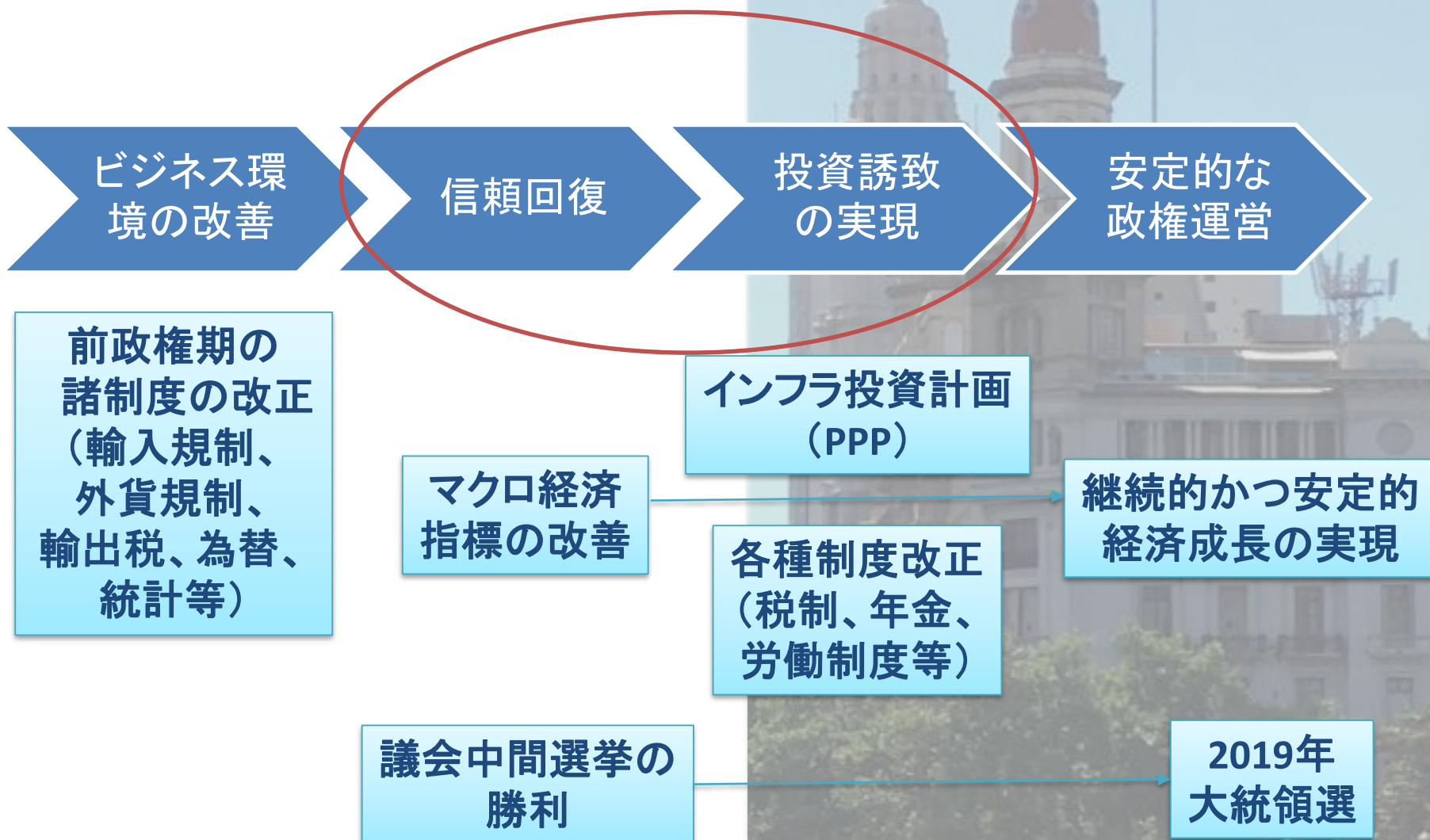


マクリ後

財政規律回復、債務返済による
国際金融界からの信任の獲得、
送金規制緩和、輸入規制緩和等



アルゼンチンはどの段階にいるか？



アルゼンチンはどの段階にいるか？

- ・「古い」アルゼンチンのイメージが徘徊
 - － 象徴的な節目が必要か？

◆「2017年議会中間選挙の
結果を見極めて」

＜議会中間選挙の結果＞

- ・与党連合が全国レベルで
支持拡大
- ・野党は分裂で敗北
- ・前大統領は次期大統領選の
有力候補から脱落

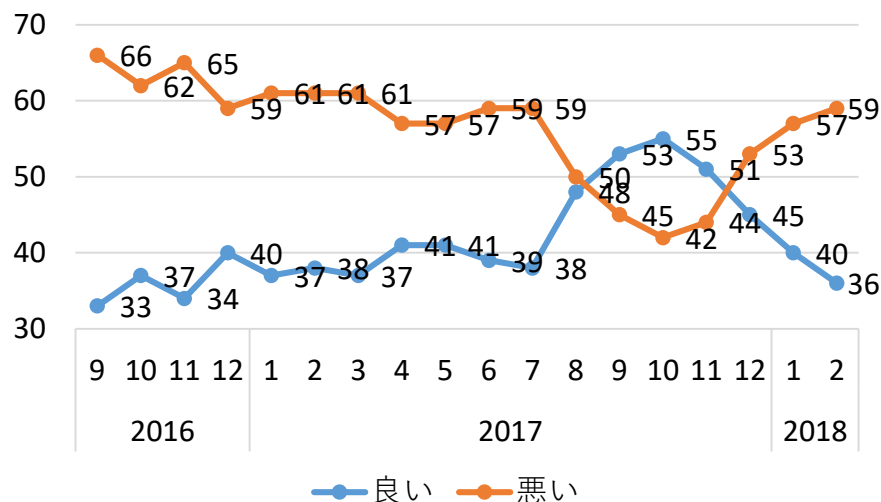


アルゼンチンはどの段階にいるか？

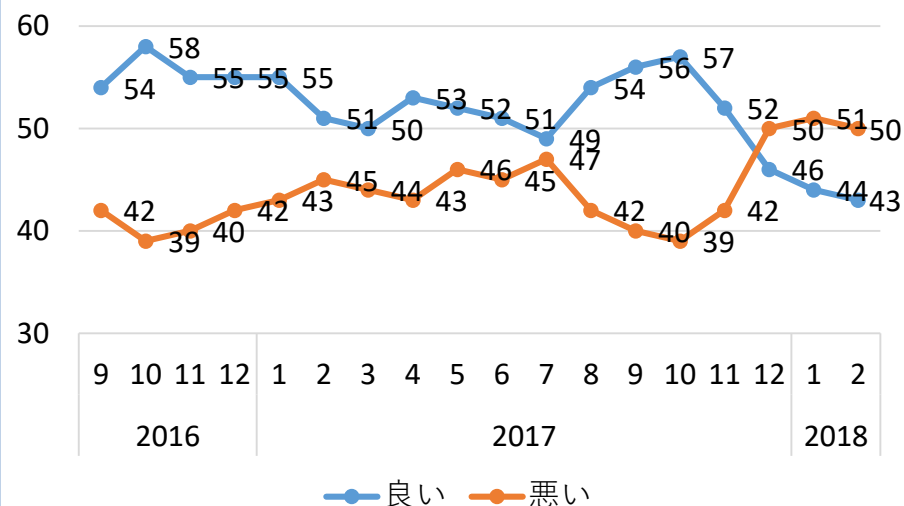
・「高揚」(ユーフォリア)の季節の終焉？

◆厳しくなり始めた国民感情

「前年と比べて」の経済情勢評価



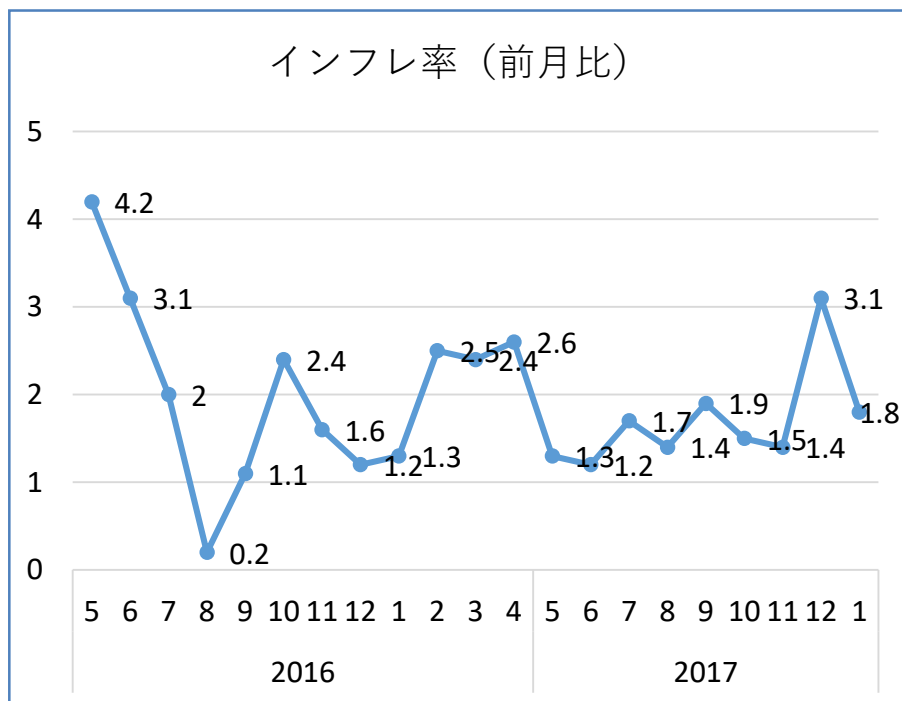
「最近1年間」に対する経済情勢評価



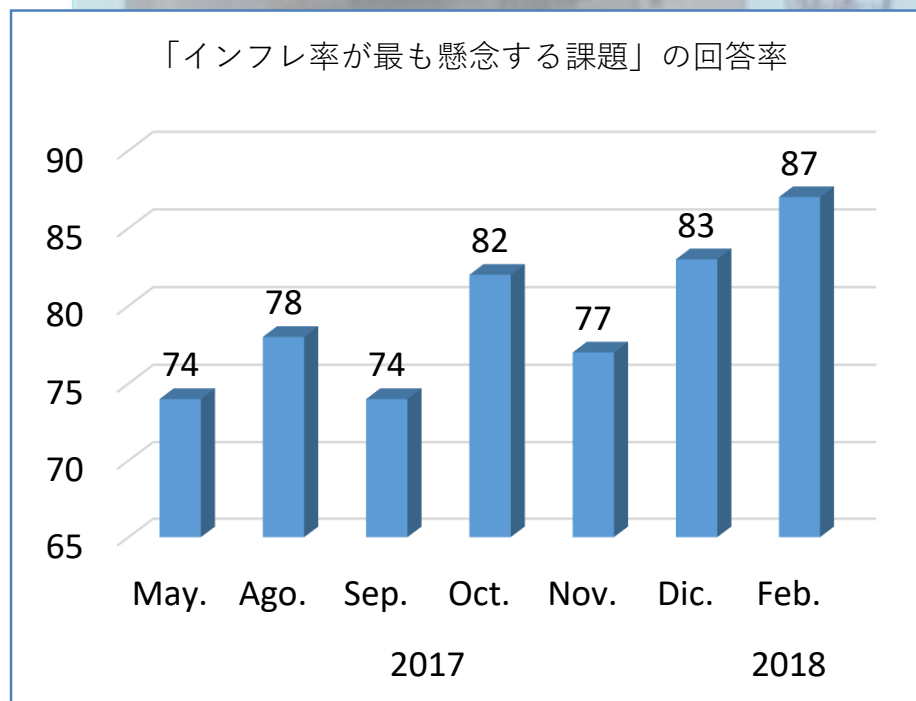
アルゼンチンはどの段階にいるか？

・「高揚」(ユーフォリア)の季節の終焉？

◆下がらないインフレ率



出所: INDEC



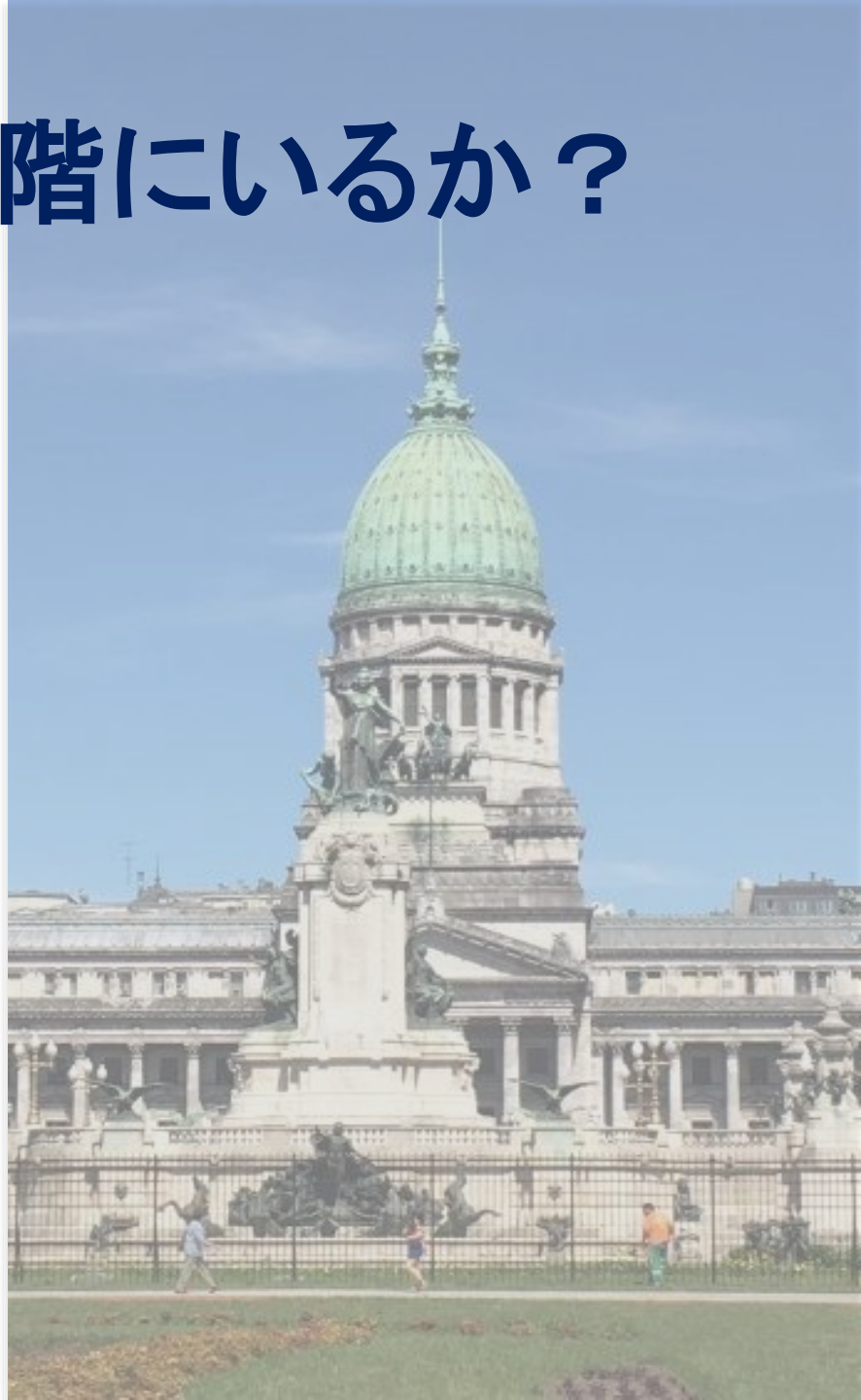
出所: クロニスタ紙 (D'Alessio Irol, Berensztein)

日本勢はどの段階にいるか？

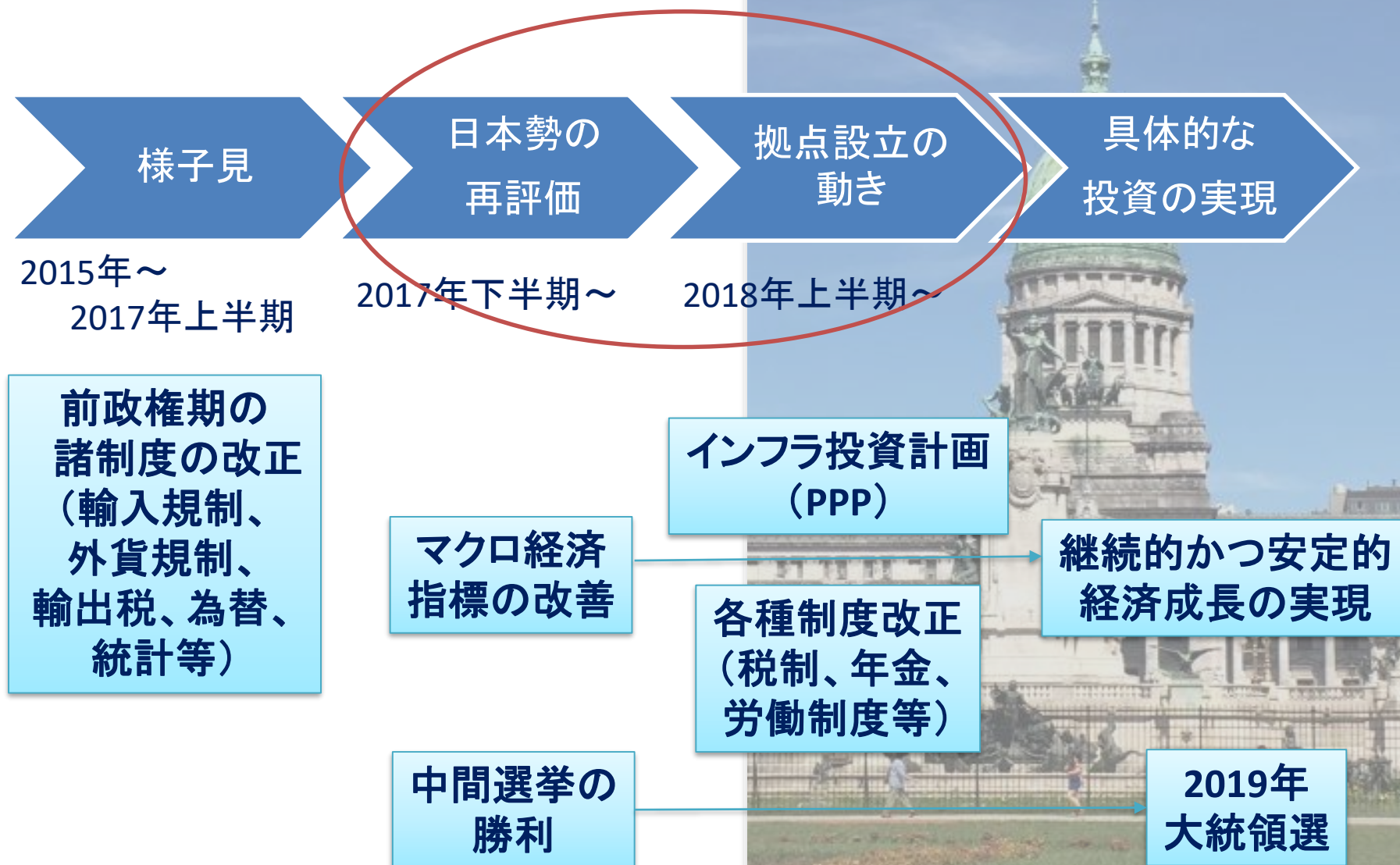
・進出日系企業は約60社

味の素	ジェイテクト	NTN
アルパイン	片岡物産	SMC
三菱東京UFJ銀行	公文教育研究会	双日
ブリヂストン	クラレ	ソニー
ブラザー	マキタ	住友化学
ダイキン	丸紅	住友商事
デンソー	前川製作所	住商アグロ
電通	三菱商事	テルモ
エプソン	三井物産	TLV
ファナック	三井住友海上	トヨタ自動車
フジテック	ミットヨ	豊田紡織
富士通	NEC	豊田自動織機
古河電工	日産自動車	トヨタ輸送
日野自動車	NSK	豊田通商
日立製作所	沖データ	ビューテック
本田技研工業	パナソニック	ヤマハ発動機
ホンダトレーディング	パイオニア	ヤマハ
いすゞ自動車	リコー	矢崎総業
伊藤忠商事	サトー	YKK
		郵船ロジスティックス

出所:ジェトロ調べ



日本勢はどの段階にいるか？



日本勢はどの段階にいるか？

様子見

日本勢の
再評価

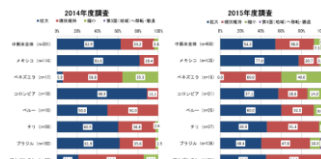
拠点設立の
動き

具体的な
投資の実現

ジェトロ：「中南米進出日系企業実態調査」

②-3-① 今後1~2年の事業展開の方向性

■中米全体では、今後1~2年の事業展開の方向性として「拡大」の回答率が64.3%で、2014年度調査と比べて減った。一方「縮小」の回答率が14.3%と増加した。メキシコは後述として説明。
■アルゼンチンでは、投資先代への期待から事業拡大意欲が高まっている。



②-3-① 今後1~2年の事業展開の方向性

■中米全体では、「拡大」の回答率が増加傾向となり、南米アジア(70.9%)には及ばないものの、東アジア(59.1%)、ASEAN(52.7%)、アフリカ(52.9%)、中東(40.9%)、東アジア(40.7%)を上回り、他の地域も概ね拡大傾向の回答が増えている。
■アルゼンチンでは、「拡大」の回答率が前年より14%と高く、ブラジルも国内需要回復の兆候化を背景に、10ポイント以上上昇した(12.7%→25.3%)。
■メキシコでは、「拡大」が前年より10ポイント低下した(78.9%→68.9%)。「現状維持」が約10ポイント上昇した(10.9%→20.9%)。事業展開の意欲は高まっているものの競争が激化している。
■ペルーなどでは、ビジネス環境や治安の悪化などを挙げて、「撤退」(地域)へ傾斜、撤退(21.4%)という回答が初めて見られた。



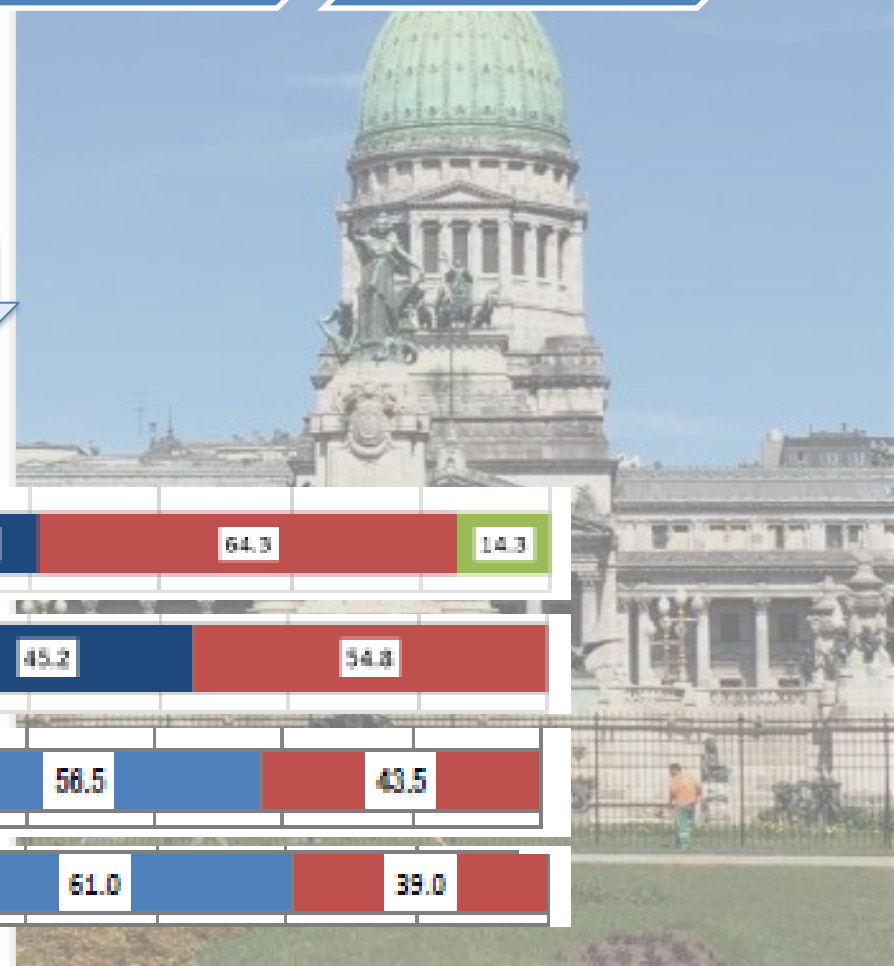
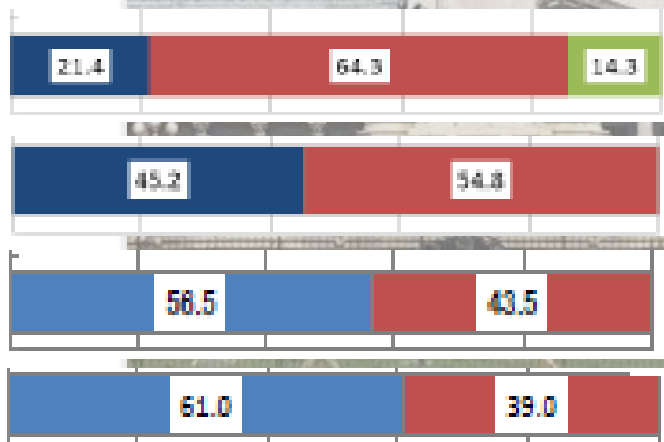
質問：今後1~2年の事業展開の方向性
(青：拡大、赤：現状維持、緑：縮小)

2014年度 アルゼンチン (n=28)

2015年度 アルゼンチン (n=31)

2016年度 アルゼンチン (n=23)

2017年度 アルゼンチン (n=41)



日本勢はどの段階にいるか？

様子見

日本勢の
再評価

拠点設立の
動き

具体的な
投資の実現

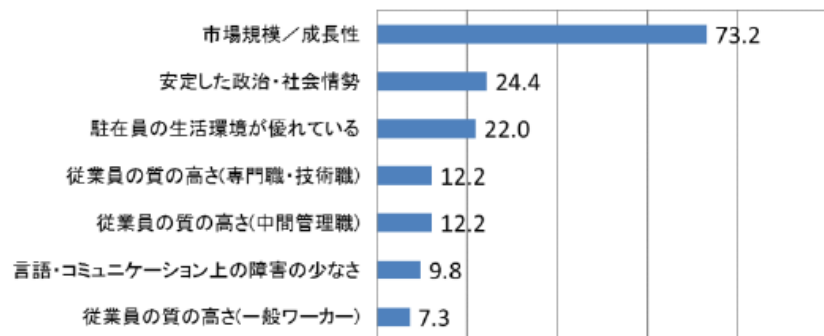
ジェトロ:「中南米進出日系企業実態調査」

8-5-(6) 直面している経営上の問題点:投資環境面のメリットとリスク～アルゼンチン～
■インフレを背景とした人件費の急騰は前年からの倍増となった(86.3%)。中央・地方でのマクロ
政策の転換期が迫り、「安定した政治・社会情勢」がタリット面で比率を伸ばした(18.0%
→24.6%)。

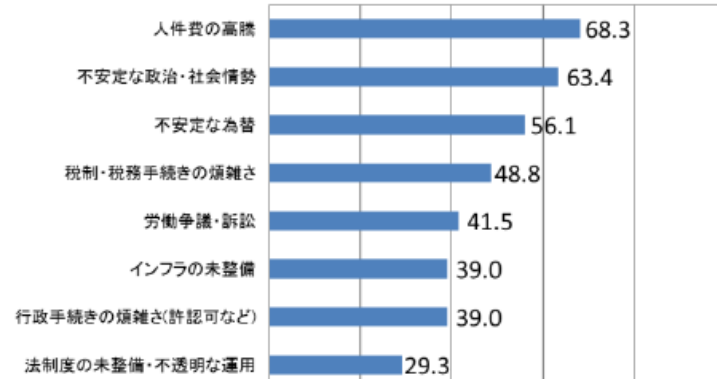


質問:直面している経営上の問題点:投資環境面のメリットとリスク(複数回答)

投資環境面のメリット:アルゼンチン(n=41)



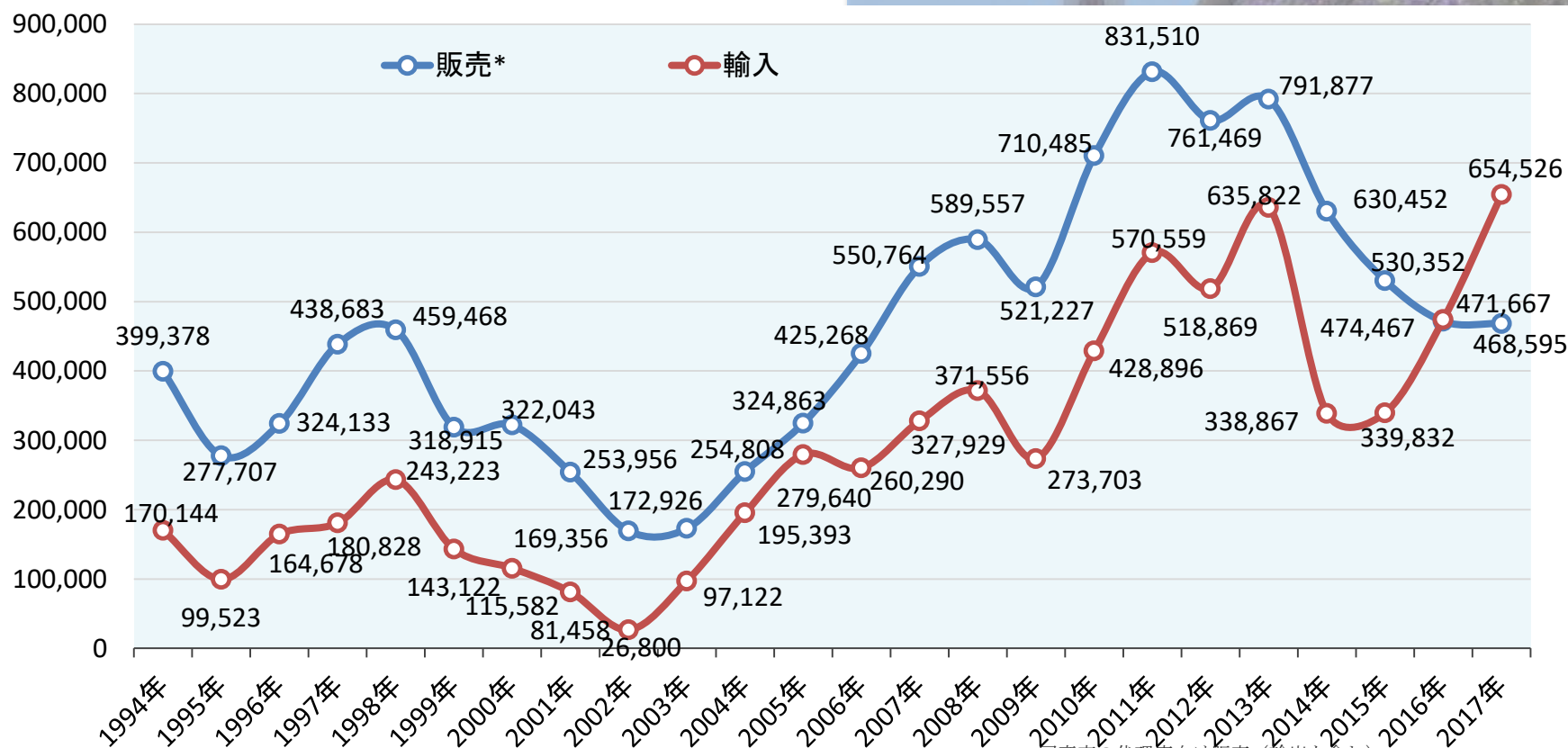
投資環境面のリスク:アルゼンチン(n=41)



アルゼンチンの自動車産業事情

・ 底を打って、回復基調へ

＜販売と輸入＞



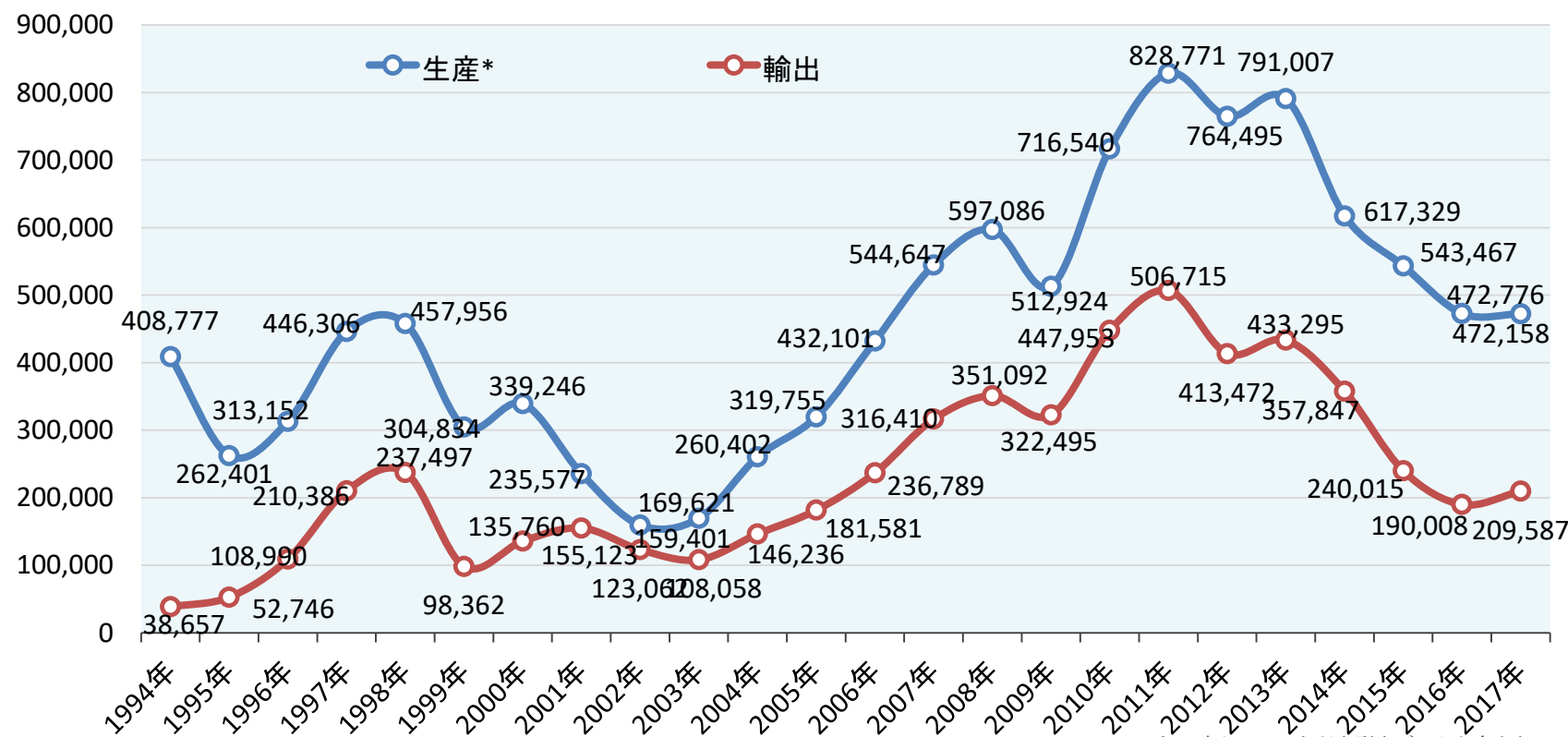
出典：ADEFA、ACARAデータに基づきエコラティナおよびキー・マーケット社作成

*国産車の代理店向け販売（輸出を含む）

アルゼンチンの自動車産業事情

・ 底を打って、回復基調へ

<生産と輸出>



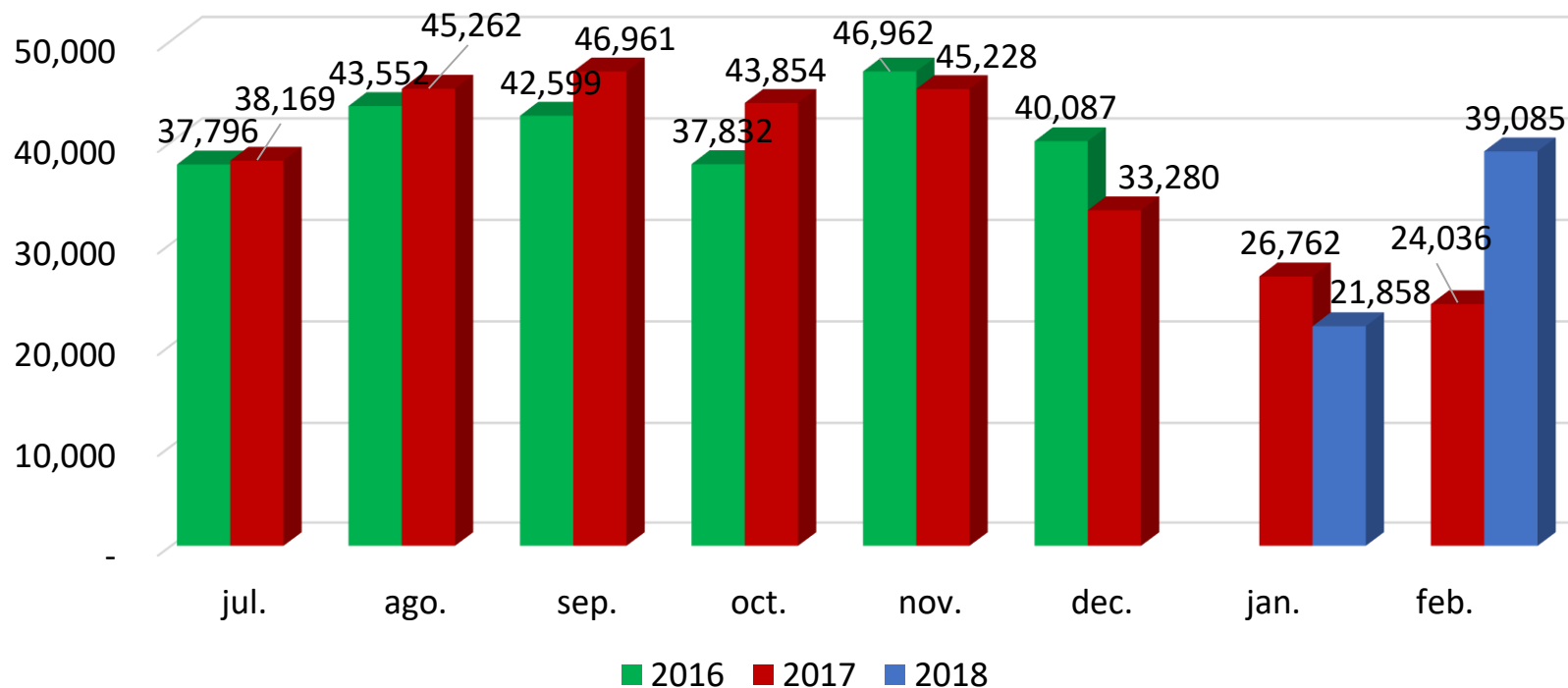
出典: : ADEFAデータに基づきエコラティナおよびキー・マーケット社作成

*2016年以降トラックなど大型車データを含まない

アルゼンチンの自動車産業事情

- 底を打って、回復基調へ

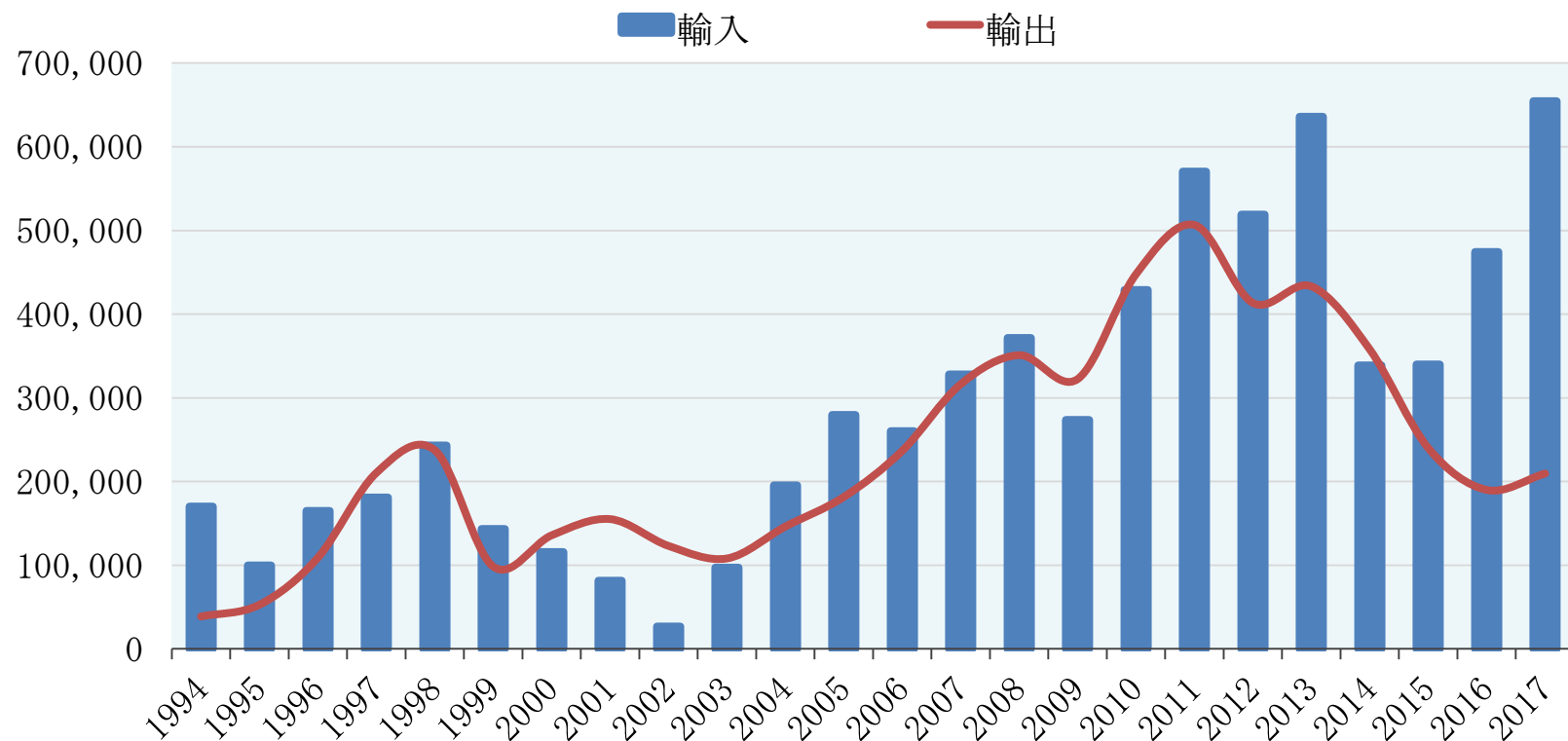
自動車生産台数



アルゼンチンの自動車産業事情

- 底を打って、回復基調へ

＜アルゼンチンの自動車貿易(台数)＞

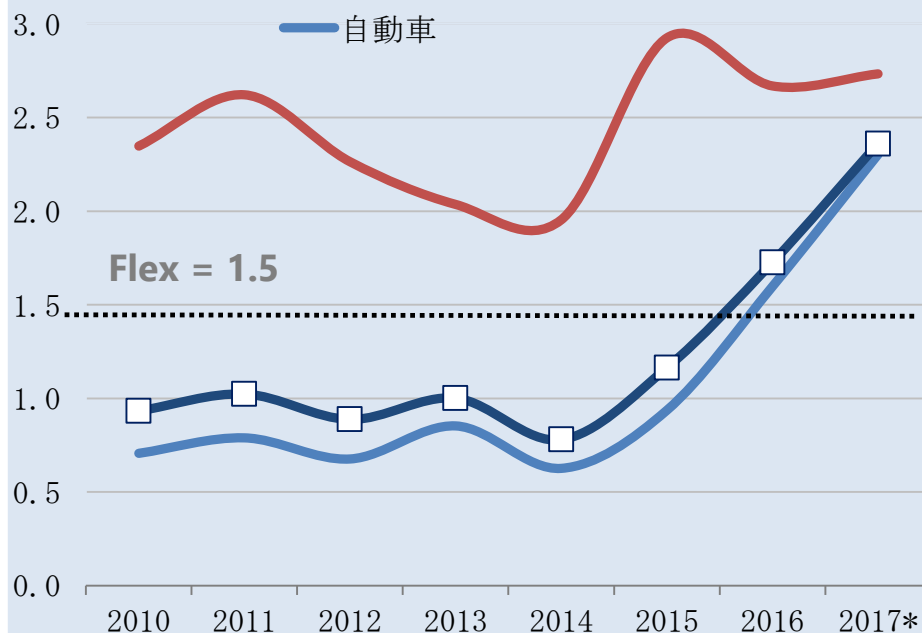


アルゼンチンの自動車産業事情

・ 底を打って、回復基調へ

＜アルゼンチンとブラジル＞

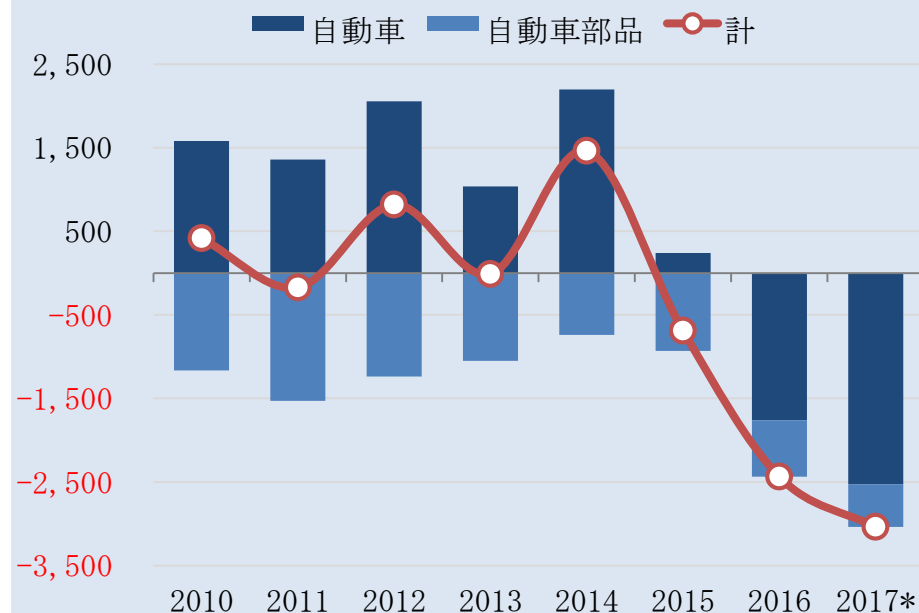
アルゼンチン-ブラジル：輸出に対する輸入の割合
- ドルによる計測 -



出典：ADEFAおよびフォーリントレードに基づきエコラティーナおよびキー・マーケット社作成

*8月までの累計

二国間の貿易均衡
- 100万 ドル単位 -



出典：ADEFAおよびフォーリントレードに基づきエコラティーナおよびキー・マーケット社作成

*8月までの累計

アルゼンチンの自動車産業事情

• 自動車を産業の柱にしたい政府

2017年 自動車協定

<目標>

- 1) 2023年までに、年間生産台数を100万台に増加
- 2) 3万人の新規雇用創出(2017年の直接雇用推定7万人)

この協定には以下の数値目標も含まれている。

- 自動車分野でにおいて、2017年から2019年にかけて50億ドルの投資を達成する
- 生産台数の最低35%をメルコスール域外へ輸出する
- アルゼンチン自動車部品の現地調達率を2019年には35%、2023年には40%に引き上げる
- 欠勤率を2019年には5%、2023年には3%まで引き下げる

「日亜」という戦略的パートナー

- 日本とアルゼンチンとの「黄金の4年間」
– 2016年から4年連続首脳の往来が予定

◆両国トップの往来

- 2016年
安倍総理訪亜(57年ぶり)
- 2017年
マクリ大統領訪日(19年ぶり)
- 2018年
G20@アルゼンチン
- 2019年
G20@日本



「日亜」という戦略的パートナー



アルゼンチンに向けた後押し材料

政府要人の往来

投資協定

租税条約

OECD加盟

日本・メルコスールEPA

「日亜」という戦略的パートナー

様子見

日本勢の
再評価

拠点設立の動き

具体的な
投資の実現

鉱山・エネルギーミッション



出所: Telam

第1回日亜農業対話



出所: アルゼンチン農産業省

	鉱山・エネルギー資源	農林水産品・農産品
IN-OUT	・安定的な資源供給先への投資 ・中流含めたビジネスチャンスの獲得	・日本産食品の輸出 ・現地進出によるビジネス展開
OUT-IN	・日本市場向けの調達	・アジア向けの調達(穀物) ・日本市場向けの調達(農産品等)

「日亜」という戦略的パートナー

- ・「新しいアルゼンチン」をどう捉えるか？
 - － 保護主義経済から開放経済への転換

◆貿易面について

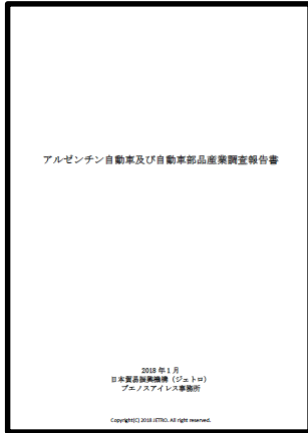
- ・約15年間のブランク
- ・輸入企業には大きなチャンス
- ・将来的な日本・メルコスールFTA



日本企業がこの機会を
活かせるか？



アルゼンチン 自動車レポートの ご紹介



「アルゼンチン自動車 及び自動車部品産業 調査報告書」

【主な内容】

- ◆アルゼンチンの自動車産業概要
- ◆アルゼンチンの自動車部品産業概要
- ◆アルゼンチンの主な非日系自動車部品メーカーリスト

リンク先

<https://www.jetro.go.jp/world/reports/2017/02/f3a032fa42fc2d8a.html>



JETRO ブエノスアイレス事務所

電話番号：

+54-11-5235-0977

メールアドレス：

infobuenosaires@jetro.go.jp

【ご注意】

本日の講演内容、資料は情報提供を目的に作成したものです。

主催機関および講師は資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否はお客様のご判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても主催機関及び講師は責任を負うことができませんのでご了承ください。